

協働育成型イノベーション創出リーダー養成

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：大阪大学（総括責任者：平野 俊夫）

プロジェクトの概要

大阪大学の産学・社会学連携の実績に依拠し、連携機関との協働育成により、イノベーション若手人材を養成する点が、提案システムの特徴である。本プログラムを契機にイノベーションコミュニティを立ち上げて、産業界及び社会との間にパイプラインを構築し、博士人材が広く社会で活躍できるシステムの形成を進める。一方、大学の組織的取組を進めるために理事クラスの検討会議の指揮の下、産学連携推進本部内にイノベーション人材育成部門を配する。実践プログラムにおいて、課題設定連携機関からの指導者・伴走者であるイノベーションプロデューサーと全国公募選抜された養成人材からなるユニットを構成し、課題解決プロセスデザインによる実践的な人材育成を実施する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

全体の取組自体は所期計画に沿ったもので、着実にプログラムをこなしており、特に動態データベースを活用した取組は評価できる。しかしながら、全体的に取組が表面的であり、博士人材のモチベーションを上げ、多数のポストドクターの養成及び進路を開拓するという結果につながりきれていないところがある。今後は、単なる「イノベーション人材」創出ではなく「イノベーションリーダー」育成のために必要な全学的プログラムへと進化させていくことを期待する。

- ・**目標達成度**：事業計画全体の達成度は評価できる。しかしながら、学内の養成対象となる博士人材が多いにもかかわらず、養成者数、企業への就職者数ともに目標を下回っているが、その状況に対する分析、対応策の検討が不十分である。
- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：課題提案型と課題解決型という2つのプログラムにより、養成対象者と研修先企業とのマッチングを丁寧に行っている。また、「CLIC-ON」というSNSを構築、活用し、地道ではあるが、しっかりとした取組を行っていることは評価できる。今後は、それらの取組がポストドクターの進路開拓につながっていくことを期待する。
- ・**実践プログラムの開発・運用状況**：課題提案型と課題解決型の2つの方法で養成対象者と長期取組先企業とのインターンシップのマッチングを行い、養成者の約半数が博士人材（特にポス

トドクター)にとって重要な課題提案型によりインターンシップを実施した点は評価できる。今後は、開発した実践プログラムの内容が、アカデミア志向の大学院生、ポストドクターにアカデミア以外の多様なキャリアパスを認識させるものであったか検証されたい。

- **実施体制**：実施体制は企業等の外部委員を含めたしっかりとした組織が作られており、評価できる。ただし、これまで以上に全学への展開を図ることを望む。
- **今後の進め方**：未来戦略機構を作り、動態データベースを基に注力すべき分野の博士人材の養成、キャリア支援を見据え、全体的な人材育成に取り組むという点は評価できる。その際、博士人材養成に対する大学としてのビジョンをしっかり持ち、学内の既存の制度も活用しながら、それに見合う資金を準備した上で全学的な展開を強力に進めていくことを期待する。